医療放射線画像展2022
レントゲン週間イベント 医療放射線画像展2022を終えて

例年、レントゲン週間のイベントとして開催しております医療放射線画像展ですが、今年度は医療放射線画像展2022～ようこそリアルラジエーションハウスへ～と題し、パネル展示と主に中高生や保護者へ向けたWEB公開講座を企画いたしました。当日はこの時期として珍しく天候に恵まれ、好天での開催となりました。
パネル展示は、会場耐震工事の影響で展示スペースを縮小しなければならず、ポスターパネルを厳選する必要があり、うまくメッセージが伝わるか不安ではありましたが、予想を上回る反響があり、喜ばしい限りでした。今回はコロナ禍ということもあり、積極的にお声掛けすることは控えましたが、老若男女問わず、通行中の一般市民の方々が足を止め、じっくりとご覧いただき、技師会スタッフにご質問される方も多く見受けられました。腹部CTAGの画像をご覧になっていた方は「これはどの部分で、どういう症状なのでしょうか。自分の身体に同じようなことが起きても検査できるものですか。」というご質問や「放射線治療に興味があるので、教えてください。」という方、「将来の進路に考えています。養成校のことや仕事の内容について興味があります。」という高校生と保護者など様々なご質問をいただきました。またご質問がなくても、展示パネルを1枚1枚しっかり時間をかけてご覧いただいた方も数多く、テレビドラマや映画、漫画などの影響も相まって、年々一般の方々の認知度が上がってきている印象を受けました。ただ中には質問することを躊躇されていると思われる方もいらっしゃいましたので、願わくはコロナ禍が落ち着き、次年度以降積極的にお声掛けさせていただき、もっとアピールできるようになってほしいと思います。
同時に開催いたしましたWEB公開講座では「診療放射線技師って？おしえてセンパイ!!」と題して、将来の進路として考えていたり、興味があったりする中高生や保護者、一般の方々にご参加いただき、養成校の紹介や習得科目、国家試験等についての講演と入職1～4年目までの県若手会員3名から志望のきっかけや学生時代の様子、入職してからの状況など実体験を赤裸々にお話していただきました。中高生にとって年齢の近い会員からのリアルなお話であったため、これからの進路を考えるにあたりイメージがしやすかったのではないかと思っております。参加していただいた方のアンケート（原文のまま）では「診療放射線技師を目指しているのでとても参考になりました!ありがとうございました!」「年の近い診療放射線技師の大学での生活や普段の仕事の話など普段聞けない話を聞けて面白かったです。」といった嬉しいリアクションがありました。ただ、反省点として、使用したミーティングツールの携帯電話からの使用が分かり辛く、参加の意思はあっても叶わなかった方もおられ、今後の検討が必要と感じております。
私たち診療放射線技師のおかれている環境は近年目まぐるしく変化しているため、国民に見える職業、貢献できる職業としてより認知していただけるようアピールして参りたいと思います。
今回の医療放射線画像展開催に際し、講師をお引き受けいただきました会員の皆さま、当日ボランティアでお手伝いいただきました理事、監事の皆さま、イベントスタッフの皆さま、準備にお力添えいただいた理事の皆さまにこの場をお借りして謝辞を申し上げます。

（文責：岩根）